

トリニダード・トバゴ共和国概況
Republic of Trinidad and Tobago

2024年8月

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

目 次

I. 概観.....	3
1. 一般情報	4
a. 面積・地勢.....	5
b. 気候・風土.....	5
c. 人口・人種・言語	5
d. 国名・国旗・国歌	5
e. 主要都市	5
f. 社会	6
g. 宗教	6
h. 教育・福祉.....	6
i. 芸術	7
j. 文化・風俗・習慣	7
k. 環境	8
l. 保健・医療.....	8
m. スポーツ.....	8
2. 歴史.....	9
a. 独立前.....	9
b. 独立後.....	9
II. 政治と外交	10
1. 概観.....	11
2. 最近の政情.....	11
3. 立法.....	12
4. 政党.....	12
5. 行政.....	13
a. 中央	13
b. 地方	13
6. 司法.....	13
7. 防衛・安全保障.....	14
8. 外交.....	14
III. 経済	15
1. 概観.....	15
2. 近年のトリニダード・トバゴ経済	15
3. 産業.....	17
4. 金融・財政	19
6. 貿易.....	20

IV.	日本との関係.....	21
1.	政治・外交	21
2.	貿易.....	21
3.	開発協力(研修員及び専門家については、2020 年度までの実績)	21
4.	要人往来	22
a.	来訪	22
b.	往訪	22
5.	文化・人的交流.....	23
6.	在留邦人	24
V.	旅行者のために	25
1.	時差.....	25
2.	通貨・両替	25
3.	税金・チップ.....	25
4.	電話.....	25
5.	電圧・プラグ・水道.....	25
6.	2024年の祝祭日	26
7.	交通事情	26
8.	治安.....	27
VI.	観光	28
1.	ポート・オブ・スペイン市内観光	28
2.	エクスカーション.....	29
a.	トリニダード島	29
b.	トバゴ島	30
VII.	宿泊	30
1.	一般事情	30
2.	ホテルリスト	31
IX.	トリニダード・トバゴに関するウェブサイト(英語).....	31
X.	主要電話番号	32
	トリニダード・トバゴ地図	36
・	ポート・オブ・スペイン地図	37
■	当館管轄国と日本の貿易関係.....	38

(注)この資料に掲載された情報は2024年8月の時点で調査したものです。旅行等に必要な情報はあらかじめお調べの上お出かけ下さい。

概観

トリニダード・トバゴは2つの島で構成される共和国で、カリブ群島の南端に位置します。ハリケーン・ベルトからは少し外れており、南米大陸に一番近いベネズエラの海岸線からわずか10キロのところに位置します。

かつては英国の植民地で、公用語の英語を約150万人の国民が使用しています。トリニダード・トバゴの英語は語尾がやや尻上がりで独特のアクセントがあります。国民のルーツはアフリカをはじめ、インド、欧州、地中海沿岸、中東、中国と多岐に渡っています。紀元前、南米からやってきたアメリンディアンがトリニダード島に定住するようになり、そこへ1498年インド航路を探していたコロンブスが到着しました。その後フランス人やスペイン人、オランダ人が入ってくるようになり、やがて英国の植民地になりました。特にトバゴ島では過去31回もの奪い合いが繰り返されました。1889年、砂糖を中心としたトバゴ経済が破綻すると、英国植民省がこれをトリニダードに併合し、統一地域としてのトリニダード・トバゴが形成されました。1962年8月31日に英国から独立した後、トリニダード・トバゴは、ウェストミンスター型の議会制民主主義に基づいて国家運営がなされ、1976年9月には大統領を元首とする共和国になりましたが、英連邦には引き続き加盟しています。

植民地時代に砂糖等のプランテーションの労働力として多数のアフリカ系住民が奴隷として連れてこられ、奴隷解放後には多数のインド人をはじめ、マデイラ諸島のポルトガル人、中国人、レバノン人、シリア人等が移住して労働に従事してきたため、この国の人種構成は大変多様性に富み、特にトリニダード島の住民は国際色豊かなものになっています。宗教面でもトリニダード島はカトリックやイスラム教等が混在し多様である一方、トバゴ島の住民は、主にアフリカ系住民で伝統的にプロテスタントが多く、他のカリブ諸国と共通性が見られます。

この国は、音楽と祭りの国でもあり、カリプソ、ソカ、スティール・パンの発祥地でもあります。毎年2月頃開催されるカーニバルの際には国全体が熱気で包まれ、まさに、強烈な生命力に満ちた文化のるつぼといった様相を呈します。

トリニダード・トバゴは、石油・天然ガス産出国で、早い時期からそれらの資源及び石油化学製品の輸出を中心に経済発展してきましたが、近年は石油・天然ガスとも生産量が漸進的に減少するとともに、石油・天然ガス市場価格が低迷していることで中・長期的には経済情勢は悪化傾向にあります。エネルギー関連産業以外の産業育成が叫ばれ、経済の多様化が必要とされていますが、輸出品目及び市場の多様化には至っていません。国内には貧困層も多く、雇用創出、犯罪、汚職、教育、保健等に対する取り組みが課題になっています。ウクライナ侵攻による国際エネルギー市場価格の高騰の恩恵と、ガソリン補助金カットを含めた歳出抑制効果により2022年度の財政収支は、過去10年で初めて黒字を確保しました。今後エネルギー市場価格は落ち着くとともに、2024年から石油化学製品の出荷減少が見込まれていますが、今後の潜在的成長可能性は2.4%と予測されています。

国際的には、グローバル化は不可逆との認識の下、他のカリブ諸国と連帯して、WTO等において、小規模島嶼国の脆弱性を背景に特別かつ差異のある待遇を求めるとともに、自らもカリコムの単一市場・経済(CSME)の実現を目指して努力しています。

1. 一般情報

	トリニダード・トバゴ	日 本
面 積	約 5,130 k m ² (トリニダード島 約 4,829 k m ² , トバゴ島約 300 k m ²) ⁱⁱ	377,975.39k m ² (2024 年) ⁱⁱⁱ
位 置	北緯 10 度 2 分～11 度 12 分 西経 60 度 30 分～61 度 56 分	東経 123～154 度 北緯 20～ 46 度
時 差	日 本 と の 時 差 は － 13 時 間	
気 候	熱帯海洋性 乾期:1～5 月, 雨期:6～12 月 年平均気温:26.2 度(2023 年) ^{iv} 年間降水量:2787.9 ミリ(2023 年) ^v	(東京)(2023 年) 8 月: 29.2℃, 1 月: 5.7℃ 年間降水量:1615.5 ミリ ^{vi}
人 口	1,534,937 人(2023 年) ^{vii} 人口増加率: 0.49%(2021 年) ^{viii} 人種構成: アフリカ系 34.2% インド系 35.4% 混合人種 23.0% その他 7.5% ^{ix}	1 億 2430 万人 (2023 年 12 月) ^x
一人当たり GDP / GNI	1 人当たり GDP(米ドル) 19,629.5 1 人当たり GNI 16,190 (世界銀行 2022 年) ^{xi}	
主要言語	英 語	
宗 教	キリスト教 プロテスタント 32.1%(うち英国国教会 5.7%) ローマ・カトリック 21.6% ヒンズー教 18.2% イスラム教 5.0% 他 ^{xii}	
その他	首 都: ポート・オブ・スペイン 国際空港: [トリニダード]ピアルコ空港 [トバゴ] クラウン・ポイント空港 最 高 峰: セロデルアリポ(Cerro del Aripo) 山(966m)	

ⁱ Food and Agriculture Organization of the United Nations, FAOSTAT. <https://www.fao.org/faostat/en/#data/RL>

ⁱⁱ Ministry of Planning and Development, *National Spatial Development Strategy for Trinidad and Tobago: Surveying the Scene (2013)*. https://www.planning.gov.tt/OurTnTOurFuture/documents/Surveying_the_Scene_web.pdf

ⁱⁱⁱ 国土地理院, 全国都道府県市区町村別面積調. <https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>

^{iv} World Weather Online, *Port of Spain Annual Weather Averages*. <https://www.worldweatheronline.com/port-of-spain-weather-averages/port-of-spain/tt.aspx>

^v Trinidad and Tobago Meteorological Services, *Climate Data*. http://www.metservice.gov.tt/climate_data/Piarco_view.php

^{vi} 気象庁, 各種データ・資料. <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

^{vii} The World Bank, *DataBank: World Development Indicators*. <http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

^{viii} The World Bank, *DataBank: World Development Indicators*. <https://data.worldbank.org/country/trinidad-and-tobago>

^{ix} CIA, *The World Factbook*. <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/trinidad-and-tobago/>

^x 総務省統計局, 統計データ. <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

^{xi} The World Bank, *DataBank: World Development Indicators*. <https://data.worldbank.org/indicator/NY.GNP.PCAP.CD?locations=TT>

^{xii} CIA, *The World Factbook*. <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/trinidad-and-tobago/>

a. 面積・地勢

トリニダード・トバゴは総面積が約5,130km²で、千葉県面積にほぼ等しい島国です。カリブ群島の最南端に位置し、南米大陸に一番近いベネズエラの海岸線からはわずか10キロしか離れていません。トバゴ島は、トリニダード島から北東に直近で約33キロのところに位置しています。

トリニダード島の大半は平野・湿地帯、トバゴ島は、島の北東から中央部にかけて山脈が走り、島の南西端近くには美しいブッコー・リーフ(Buccoo Reef)があります。

b. 気候・風土

熱帯に位置し、高温多湿で、1年の気候を大別すると乾期(1月～5月)と雨期(6月～12月)に分けられます。乾期は概して晴天が多い一方、雨期は連日のごとく激しいスコールがあり、年間の雨量は2367.9ミリ(2022年)に達します。他のカリブ諸国と異なりハリケーン・ベルトからはややはずれているため、6月～11月のハリケーン・シーズンも当地を直撃することはあまりありません。トリニダード・トバゴで最も過ごしやすい時期は12月～3月頃であり、1年を通じて最高気温は30.4～33度、最低気温は22.2～24.3度、年平均25.7度、湿度は年平均87%です(2022年)。

c. 人口・人種・言語

トリニダード・トバゴの総人口は約150万人で、民族構成は国の歴史を反映して多様であり、アフリカ系とインド系人種が各35%程、約23%が混合人種、残りがヨーロッパ系、中国系で構成されています。公用語は英語です。(出典:2011 CENSUS)

d. 国名・国旗・国歌

【国名】トリニダード島の名前は、コロンブスが同島を「発見」した際に名付けたもので、三位一体を意味するスペイン語に由来します。トバゴ島の名前の語源は不明ですが、先住民や後に入植者が栽培していたタバコに由来するとの説が有力です。

【国旗】



国民の活力と太陽の熱気やエネルギーを象徴する赤色の基調の上に、左上方からは白で縁取りされた黒の対角線が走っています。黒は力・団結・国の富を表し、白は国を取り巻く海を象徴しています。1962年の独立の際に国民のアイデアを取り入れ採択されました。

【国歌】1962年の独立に際し、Patrick Castagneにより作詞・作曲されたもので、「文化・宗教を異にする国民がカリブ海の島で神の恵みの下、同等の権利を享受する」旨を勇壮に歌い上げています。

e. 主要都市

トリニダード・トバゴの首都ポート・オブ・スペインは、1757年当時のスペイン総督 Don Pedro de la

Moneda の指揮の下で建設され、豊かな天然資源と港湾建設に適した地理的条件を理由に、1774年首都になりました。地名がスペインの港とされるとおり、トリニダード・トバゴがスペインの植民地であったことを示しており、また、スペイン及び英国の植民地であった歴史を反映して、往時をしのばせる建造物などが今も残っています。その他の都市としては南部の工業都市サンフェルナンド(San Fernando)等があります。

トバゴ島の最大都市はスカーボロー(Scarborough)です。

国際空港は各島1つずつあり、トリニダード島はピアルコ国際空港(ポート・オブ・スペインから 約27キロ)、トバゴ島はクラウン・ポイント国際空港(スカーボローから約10キロ)です。

f. 社会

コロンブスによる「発見」以後、1834年の奴隷解放までは、欧米系、混合人種、アフリカ系から成るいわゆるクレオール社会が確立されていました。その後は、インド人を中心に中国人、ポルトガル人、シリア人等が契約労働者として流入してきました。これらの諸民族は、その歴史、言語、宗教、思想、皮膚の色、社会環境などが異なり、その影響から今日のトリニダード社会は、複合民族国家となっています。そうした中でアフリカ系、欧州人移住者の子孫、契約労働者として移住してきたインド人の子孫の3つのグループが社会の基本的な性格を形成しています。

g. 宗教

トリニダードの宗教はキリスト教が大半であり、中でも長いスペイン統治の影響でローマ・カトリック(21.6%)が最も多く、その後の英国統治の影響による英国国教(5.7%)も広く普及しています。その他、インド系住民にはヒンズー教徒(18.2%)が多く見受けられます。イスラム教徒(5.0%)としては、インド系イスラム教徒の子孫および60年代の米国アフリカ系運動に影響を受けたイスラム教徒が存在します。

トバゴ島の住民は、主にアフリカ系で伝統的にプロテスタントが多く、他のカリブ諸国と共通性が見られます。(出典:2011 CENSUS)

h. 教育・福祉

英国に倣った教育制度で、比較的高い教育水準を誇っています。6歳からの初等教育6年間が義務教育で、公立校は初等教育と中等教育は無償で提供されています。成人識字率は99%(2015)と推定されています。

総合大学は西インド諸島大学(University of the West Indies)セント・オーガスティン(St. Augustine)校、南カリブ大学(University of the Southern Caribbean)及びトリニダード・トバゴ大学(University of Trinidad and Tobago)がありますが、他にも各種専門学校、職業訓練校が存在します。

トリニダード・トバゴが輩出した著名な文化人としては、2001年にノーベル文学賞を受賞した作家 V. S. ナイポール(V. S. Naipaul)、歴史家としても著名であった初代首相エリック・ウィリアムズ(Eric Williams)、歴史・思想家である C. L. R ジェームズ(C. L. R. James)、小説家マイケル・アンソニー(Michael Anthony)などが挙げられます。

i. 音楽・芸術

トリニダード・トバゴを発祥の地とするソカ、カリプソ音楽とスティール・パンは世界的に有名です。カリプソは約200年の歴史を持ち、奴隷貿易によってアフリカからもたらされた「カリンダ」と呼ばれる攻撃的な歌詞を持つ音楽が起源とされ、西洋音楽との融合によって19世紀末に誕生しました。「ピコン」と呼ばれる即興性の強い社会風刺を特徴とし、カリプソニアンと呼ばれる歌い手が、日常生活における困難や社会的問題、男女問題など、さまざまなテーマをリアルに伝える情報メディアとしての役割を果たしました。また、カーニバルが文化の基層にあるトリニダードで、カーニバルの際に歌われ、カーニバルとともに発展してきました。リズムは4分の2拍子。そのメロディーとは対照的で、切実かつ辛辣です。カリプソの大御所には、マイティ・スパロウや、カリプソの女王と呼ばれたカリプソ・ローズなどがいます。カリプソ・ローズは、2019年4月には、北米ロサンゼルス郊外の野外音楽フェス・コーチェラに79歳で最年長出演をして話題となりました。また、2021年には、日本国内でドキュメンタリー映画「カリプソ・ローズ」が上映されました。

スティール・パンの歴史は1930年代に始まると言われていますが、極めて短期間でこれほど世界に知れ渡った楽器も珍しく、熟練の技を持った職人によって、輪切りにしたドラム缶の表面をハンマーで叩いて音階を調節しながら製作されます。パンから放たれる音量と音域は、聞く者を陶酔させずにはおきません。2014年に公開された映画「スティールパンの惑星」は、2021年に日本国内でも各地で上映され、話題を呼びました。

同国出身の著名なソカのアーティストには、デストラ・ガルシア、マシエル・モンタノ、ケス（・ザ・バンド）、ブンジ・ガーリン、フェイアン・ライオンズなどがいて、海外でも活躍しています。Ash Wednesday の前の2日間にアップテンポなソカのメロディーに合わせて老若男女が踊り狂うカーニバルは国を挙げての祭典であり、多くの観光客を魅了しています。豪華絢爛なカーニバル衣装も有名であり、カーニバル衣装のデザイナーであるピーター・ミンシャル（Peter Minshall）は1996年アトランタ五輪開会式の衣装デザインを担当するなど、国際舞台でも活躍しています。

インド系社会では、上記のようなアフロ・クレオール文化への完全な同化を拒む者も多く、インドの伝統芸術や音楽も世代を越えて継承されています。

また、巨匠とも呼ばれる当国在住の画家ピーター・ドイグ（Peter Doig）は、スコットランド生まれ当国育ちで、当国や日本を題材にした作品等で知られ、2020年2月から10月に東京国立近代美術館で日本初個展を開催し、大きな反響を呼びました。

j. 文化・風俗・習慣

トリニダード・トバゴは多様な人種を有していますが、法制度、教育、儀礼などには旧宗主国英国の影響が色濃く残っています。他方で、アフリカ系、インド系、中国系、シリア系、ポルトガル系など様々な文化要素も加味され、非常に豊かな多文化国家を形成しています。

複合民族国家であるため、各民族に対応して様々な宗教行事、風俗、社会習慣が存在します。キリスト教、ヒンズー教、イスラム教の祝日がいずれも休日に指定されるなど、文化の多様性を尊重する配慮が払われています。フォーマルな席では服装、マナーともにヨーロッパ式が要求されますが、アフリカ系、インド系、イスラム系の民族衣装で登場することも珍しくありません。食事でもクレオール料理、インド料理、中華料理、アラ

ブ料理、西欧料理などがあり大変バラエティーに富んでいます。

k. 環境

国土が小さい上にエネルギー関連を中心とした工業化が進んでいるため、河川や海洋の水質汚染、森林破壊、珊瑚礁の浸食等が問題になっています。近年では、トリニダード島、トバゴ島ともに東海岸に漂着するサルガッサム海藻が漁業や観光の弊害となっています。環境問題への関心の高まりを受け、1995年に環境管理法が成立し、統合的に環境対策を行う環境管理局(EMA)が創設されました。

l. 保健・医療

一般的な怪我や病気に関しての医療水準は比較的高く、薬品も容易に入手できます。ポート・オブ・スペインとサンフェルナンドには国立総合病院があり、無料で国民が医療を受けられる制度になっていますが、いつも超満員であり治療が行き届かないという欠点があります。難病や難しい手術は、米国やカナダなどの先進国に受けに行く人が多いようです。

一部地域ではデング熱が流行することがあります。また、HIV/AIDS 問題については正確な統計はありませんが、カリブ地域はサハラ以南アフリカに次いでエイズ罹患率が高い地域であり、トリニダード・トバゴも例外ではないとされています。

2020年3月、新型コロナウイルスの感染が発生し、当初は早期の国境封鎖と外出禁止等の措置が効を奏し、感染者は横ばい状態が続きましたが、同年7月中旬以降感染者が増加し、1日の感染者数が約3000人に上ることもありました。2021年5月には不要不急の外出制限、飲食店を含む営業制限が出されたほか、緊急事態宣言発出と夜間外出禁止も実施され、同年11月末まで継続されました。

m. スポーツ

スポーツは、英連邦の一員であるだけに、クリケットや競馬が盛んです。世界的に有名なクリケット選手としては、個人最多得点の世界記録保持者であるブライアン・ララ(Brian Lara)が国民的英雄となっています。近年はサッカーがクリケットと並んで最も人気のあるスポーツの地位を占めてきています。2006年にはドワイト・ヨーク(Dwight Yorke)率いるナショナル・チームが、ドイツで開催されたワールドカップに初めて出場しました。また、2019年6月には日本でTT代表と日本代表との親善試合が行われました(引き分け)。トリニダード・トバゴは陸上競技にも強く、独立国として最初に参加した1964年東京五輪でウエンデル・モトリーが400mで銀メダルを獲得し、合計銀メダル1、銅メダル2という成果を挙げました。その後も陸上競技を中心に活躍し、1976年のモントリオールオリンピックではヘイズリー・クロフォードが男子100mでTT初の金メダルを獲得。更に、2008年の北京オリンピックでは男子4x100mリレー、2012年ロンドンオリンピックではケション・ウォルコットが男子やり投げでいずれも金メダルを獲得しています。2019年5月の横浜での国際リレー大会では、男子4x400mリレーで優勝しました。

また、日本武道に関しては、柔道、剣道、空手などの団体が規模は小さいながらも活動しています。剣道については、毎年、当地剣道連盟が大会を開催し、当館から「大使館杯」トロフィーを供与しています。2020年にマーク・リトリアン・クイーンズパーク柔道協会会長が、2021年にはエディ・デビッス剣道協会会長が外

務大臣表彰を受章しました。

2021年の東京五輪には、30人以上の当国選手が参加しました。陸上競技では、ジャリーム・リチャード選手が男子200メートル決勝8位のほか、他の6選手とともに400メートルリレー決勝8位、タイラ・グッテンズ選手が女性走り幅跳びで決勝10位、ポーティアス・ワレン選手が女子砲丸投げで決勝11位となりました。また、サイクリングでは、男子競輪のクウェシ・ブラウン選手が決勝9位、ニコラス・ポール選手が男子スプリントにて決勝6位となり、また、女子漕艇シングルスカル種目では、フェリス・アイシャ・チョウ選手が総合19位の成績を残しました。なお、柔道女子78キロ超級のガブリエラ・ウッド選手は予選敗退しました。

2. 歴史

a. 独立前

トリニダード島には、もともと紀元前に南米からやってきたアメリンディアンが定住していましたが、1498年7月31日、コロンブスの第3回航海により発見され、スペイン領になりました。1802年のアミアン条約によって英国領となつてからは砂糖産業の導入等により島は急速に発展しました。トバゴ島は、1498年の発見後、約2世紀に亘り、オランダ、英国、フランス等の占領下にあり、1814年のパリ条約によって正式に英国に割譲されました。トリニダード・トバゴは占領の歴史であり、特にトバゴ島では過去31回もの奪い合いが繰り返されました。

両島では砂糖園経営のために多くのアフリカ人奴隷が導入されましたが、1834年の奴隷制廃止後、インド人、中国人、ポルトガル人、レバノン人、シリア人などが続々と契約労働者として流入したため、人口も急増しました。1889年、砂糖を中心としたトバゴ経済が破綻すると、4月6日、両島は合併され、英国植民地トリニダード・トバゴとなりました。その後英領カリブ諸島に起こった自治権拡大の要求がトリニダード・トバゴにも波及し、1925年には立法府に選出議員が送られ、1946年に普通選挙を、1950年に責任内閣制度を導入し、1956年に自治領となりました。さらに1959年に議員内閣制度を導入、1961年に二院制議会が成立し、1962年8月31日に独立しました。

b. 独立後

独立後のトリニダード・トバゴは、ウェストミンスター型の議会制民主主義に基づいて国家運営がなされ、1976年9月には大統領を元首とする共和国になりました。エリック・ウィリアムズ初代首相の強力な指導力の下、人民国家運動(PNM)が長期にわたって政権を維持しました。1981年にウィリアムズ首相が死去し、石油価格の低迷と財政赤字の拡大により経済が低迷し、国民の間にも次第にPNM離れが進みました。1986年に反PNM連合である国家再建連合党(NAR)が総選挙で地滑りの勝利を収め、PNM長期政権に終止符を打ちました。しかし、その後NARは分裂し、またIMFの指導の下で行われた構造改革が経済の停滞を招いたため、次第に苦況に立たされるようになりました。

1991年の総選挙ではPNMが再び政権に返り咲き、NAR政権が着手した構造改革を引き継ぎ、経済自由化、国営企業の民営化、公的部門の人員削減、変動為替相場制への移行を進めましたが失業者の増加や物価上昇を招き、国民の不満をつのらせました。1995年の総選挙で、PNMはインド系新党の統一国民会議(UNC)とNARの連合に政権の座を譲ることとなり、パンディUNC党首がインド系では当国史上初めて

の首相に就任しました。

好調な経済を背景にその実行力が評価されたパンディ政権ではありましたが、他方で汚職の噂が絶えず、2000年12月の総選挙では政治腐敗が争点になりました。結局は、経済的実績を強調するUNCが単独過半数を獲得し、第二次パンディ政権が発足しました。しかしながら、選挙不正疑惑や汚職疑惑が次々と浮上し、さらには与党内で政府の不十分な汚職対策や党内での処遇に不満を抱くグループが造反、党は分裂し、パンディ首相はわずか1年で解散総選挙実施を余儀なくされました。

2001年12月に行われた総選挙では、UNCとPNMが議席を半々に分け合う結果になり、両党は権力共有を含む協定を結び、首相の選出は大統領に一任することで合意しました。しかし、野党PNM党首が首相に任命されたことにUNCは反発し、与野党合意を破棄しました。2002年4月には与野党の対立から国会が休会になり、政治的膠着状態が続きましたが、2002年10月、再度総選挙が行われ、PNMが20議席（UNC16議席）を獲得し、膠着状態に終止符が打たれました。

2002年から2010年5月末まで政権を執ったマニング首相率いるPNMは、この期間、石油・天然ガスのエネルギー産業を主とする国内経済の好況により、低所得者向け住宅の建設、治安対策の強化、教育部門の強化及び医療政策の充実化等、安定した政権運営を行いました。2007年11月の総選挙では、マニング政権は、高インフレ、治安悪化、同首相の司法介入問題や閣僚のスキャンダル疑惑や与党内不和で苦戦が予想されましたが、同政権の手堅い政権運営が評価され、野党の内部抗争にも助けられ、与党が26議席（総議席41）を獲得し、安定した権力基盤を確立しました（最近の政情に関してはⅡ－2「最近の政情」を参照してください）。

II. 政治と外交

独立年月日	1962年8月31日	
政 体	大統領を元首とする共和制 現大統領：クリスティーン・カーラ・カンガルー大統領 Her Excellency Christine Carla KANGALOO (任期5年、法律上再選可)	
立 法 府	上 院	下 院
議席数	31議席	41議席
任期	5 年	
政党議席数	首相が16名、野党代表が6名を推薦し大統領によって任命、9名は各界代表から大統領により任命。	人民国家運動(PNM)22 統一国民会議(UNC)19 直接選挙によって各選挙区から1名ずつ選出。
主要政党	人民国家運動(PNM) 党首 キース・ローリー (Keith ROWLEY) 統一国民会議(UNC) 党首 カムラ・パサード＝ビスセッサ (Kamla PERSAD-BISSESSAR)	

行 政 府	【中央】議院内閣制 下院優位制 【地方】地方自治 トバゴにはトバゴ島政府(THA)を設置
司法制度	・ 治安判事裁判所(Magistrate) ・ 高等裁判所(High Court of Justice) ・ 控訴裁判所(Court of Appeal) ・ 最高裁判所(Supreme Court of Justice) ・ 英国枢密院(Privy Council)
防 衛	国防軍(陸軍・沿岸警備隊・空軍等)

1. 概観

政治制度は旧宗主国である英国の伝統を取り入れ、議院内閣制や小選挙区制を特徴とするいわゆるウェストミンスター制が採られています。1976年の共和国移行に伴い、国家元首として大統領が国会議員により選出されています。

トリニダード・トバゴ政治の特徴は、貧富の格差という社会経済的亀裂に加え、二大民族であるアフリカ系とインド系の確執が存在することです。アフリカ系が支配的なPNMの長期政権下でインド系政党は従属的な地位に甘んじていましたが、インド系の社会進出が進むにつれ、政界でもインド系指導者が躍進するようになり、1995年には初のインド系首相が誕生しました。こうした社会構造の流動化を反映して、現在アフリカ系とインド系をそれぞれ支持基盤とする二大政党が熾烈な争いを展開していますが、それは政治レベルでの確執であり、民族グループ間の暴力沙汰に発展することはなく、それぞれのグループが平和に共存している状態です。

2. 最近の政情

2010年4月、マニング首相は、任期満了まで約2年半を残して議会を解散、5月24日に総選挙を実施しました。その結果、UNC及びCOP(Congress of the People、トバゴ島の政党)を始めとする野党連合の人民のパートナーシップ(PP)が41議席中29議席を獲得し圧勝、約10年ぶりの政権交代が実現するとともに、初の女性首相(パサード＝ビセッサ＝首相)が誕生しました。PPはインフラ開発や教育等の分野で実績を挙げましたが、相次ぐ閣僚のスキャンダルとこれに起因する内閣改造や与党内不和、さらに汚職疑惑により、国民の不信感や失望感が高まりました。

2015年9月の総選挙では、ローリー党首率いるPNMが23議席を獲得し、5年ぶりに政権に復帰しました。ローリー新政権は、経済の主要な外貨収入源である石油、天然ガス部門の低迷に対応するため、(1)政府支出の7%削減、(2)資産安定化基金の活用による対外債務増加の防止、(3)民間資金の活用による住宅建設の促進、(4)税制改正、(5)弱者対策の維持を主とする財政の緊縮及び外貨の節約を伴う経済・財政政策の調整を実施する旨表明しました。ローリー政権は、経済面、治安対策面での各種政策や新規立法などを行いましたが、2019年12月の地方選挙では、議席を減らす結果となりました。2020年3月のコロナ禍発生に対する政府の早期の国境封鎖や外出禁止により、当面の感染拡大防止に成功し、政府の措置は概ね支持されました。2018年3月、トリニダード・トバゴ初の女性大統領として、ポーラ＝メイ・ウィークス大統領が就任しました。

2020年7月3日、ローリー首相は、議会を早期解散し、8月10日に総選挙が行われました。結果は、与党PNMが1議席を減らしたものの、22議席を取り、19議席の野党UNCを抑えて再選されました。8月19日、第2次ローリー政権が発足し、主要閣僚の多くは留任しましたが、外務大臣にはブラウン前駐ブラジル大使(元社会開発大臣)が就任しました。ローリー政権は、特に治安改善のための犯罪防止関連法案の整備に努めています。2020年の殺人等の凶悪犯罪件数は、コロナ禍による外出規制の影響もあり、前年比で約25%減少しましたが、女性誘拐、殺害事件が相次ぎ、女性への暴力が大きな社会問題となり、2021年6月に護身用の催涙スプレーが合法化されたほか、性犯罪者の情報の一般公開に関する法案が可決されました。更に、コロナ禍が落ち着き始めた2022年に確認された殺人事件被害者数は過去最高の605人となり、また、2023年2月時点の殺人件数は前年同時期の件数を上回ったことも受け、警察幹部は既存の取り組みの強化および新たな犯罪撲滅戦略に乗り出すことを発表しています。

2021年4月に、カーン・エネルギー大臣が急逝し、後任のエネルギー大臣にヤング国家安全保障大臣が就任し、後任の国家安全保障大臣にハインズ大臣が就任するなどの一部内閣改造が行われました。また2022年3月、アル＝ラウィ前司法長官が地方開発・地方自治大臣に就任し、後任にアモー司法長官が就任するなどの一部内閣改造が再び行われました。

また2021年8月に任期が終了したグリフィス前警察長官が、警察人事委員会によって長官代行に任命された手続きについて、同年10月、裁判所は同手続が違憲との判決を下し、その後も同長官の後任が長期間不在となる異例の状況が続いていましたが、2023年2月、国会は全会一致で、国内初の女性警察長官となるエルラ・ヘアウッド＝クリストファー氏を選出しました。

2023年3月、第7代大統領にカンガルー前上院議長が就任し、ウィークス前大統領に続き2人目の女性大統領が誕生しました。

3. 立法

議会は二院制で上下両院から成っています。上院に実質的な権限はほぼなく、下院優位の制度です。議席数は上院が31議席、下院が41議席です。上院議員は任命制で、31名中16名は首相の推薦、6名は野党代表の推薦、残りの9名は経済、社会、公共団体等各界代表の中から大統領によって任命されます。下院議員は、18歳以上の国民による直接選挙で41の選挙区から各1名が選出されます。任期は上下両院ともに5年で、下院は解散することができます。

4. 政党

現在のトリニダード・トバゴの政党は、アフリカ系を支持基盤とするPNMとインド系を支持基盤とするUNCの二大政党になっています。

- 人民国家運動(People's National Movement, 略称PNM)
党首 キース・ローリー(Keith Rowley)
- 統一国民会議(United National Congress, 略称UNC)
党首 カムラ・パサード＝ビセッサ(Kamla Persad-Bissessar)

5. 行政

a. 中央

議院内閣制をとっており、下院の多数党の党首が大統領により首相に任命され政権を担当します。首相は上下両議員の中から閣僚を指名し、これを大統領が任命します。

(別添「トリニダード・トバゴ閣僚名簿」参照)

b. 地方

国土が小さいこともあり、伝統的に中央集権型の政治体制がとられてきていましたが、近年は地方自治の領域が拡大しつつあります。行政単位としては8つの郡(county)と14の自治体(corporation)の並存により全国がカバーされています。地方議会議員(計124議席)の任期は3年で、18歳以上の住民による直接選挙で選ばれます。前政権による地方政府改革法案の成立に時間を要したため、地方選は2003年を最後に、任期満了を迎えた2006年から延期されていましたが、2010年7月によりやく実施され、134議席のうち、PPが97議席を獲得しました。その後3年ごとに地方選が行われ、2019年12月に行われた地方選挙では、総議席139の内、PNMは74議席と選挙前より11議席減らし、総投票数でもUNCがPNMを上回る結果となりました。2022年7月には自治体法人法の改正を含む地方政府改革法が可決され、議員の任期を4年に延長することが可能になりました。なお、法律が施行される前に選出された個人に適用されるかは、未だ争点となっています。

トバゴ島については、トリニダード島と比較して低開発地域であり、自治権および予算の配分を巡って中央政府との間に確執があります。そのため、トバゴ議会法(1980年制定)により他の地方自治体よりも大きな自治権を与えられたトバゴ島政府(Tobago House of Assembly, THA)が設立されています。15議席が直接選挙によって選ばれ、任期は4年、行政長官は議会の多数党の党首が選出されます。2021年1月に行われたトバゴ島政府議会選挙の再選挙が議席数15に対して2022年12月に行われ、当初の接戦との予想に反し、野党進歩民主愛国党(PDP)が14議席、与党人民国家運動(PNM)が1議席のみと与党PNMが大敗し、行政長官にオーガスティンPDP副党首が就任し、副長官にはデューク同党党首が就任しました。しかしその後、PDP内に亀裂が入り、2022年9月にはデューク党首はトバゴ副長官を辞職、2023年2月にはオーガスティン行政長官を含む複数の議員がPDPを離党するなど、PDP内には混乱が見られます。

6. 司法

トリニダード・トバゴの司法制度は

- ・ 簡易裁判所である治安判事裁判所(Magistrate)
- ・ 高等裁判所(High Court of Justice)
- ・ 控訴裁判所(Court of Appeal)
- ・ 最高裁判所(Supreme Court of Justice)
- ・ 英国枢密院(Privy Council)

から構成されています。

なお、英国枢密院の死刑廃止ガイドラインを不服とする英連邦カリブ諸国は、ポート・オブ・スペインに

裁判所を構えるカリブ司法裁判所(Caribbean Court of Justice: CCJ)を支持し、2005年4月15日をもってCCJが英国枢密院に代わる最上級裁判所およびカリコム単一市場経済の紛争処理機関として機能することになりました。但し、トリニダード・トバゴの最高裁判所としてCCJが機能するためには憲法改正の手続きが必要であり、今なお英国枢密院が機能しています。

7. 防衛・安全保障

陸軍、沿岸警備隊(実質上の海軍)、空軍から成る国防軍が存在します。陸軍は戦闘大隊と支援大隊から構成されています。2005年には沿岸警備隊の一部であった航空団が空軍に昇格しました。兵役はありません。

1967年に米州機構(OAS)に加盟し、OAS集団防衛体制下に入りました。近年は 南米産麻薬の密輸ルートになっており、治安・安全保障上の最大の脅威と見なされています。1996年には麻薬対策を目的として、米国との間に米国官憲の領海内での活動を認める海上協力協定が結ばれています。2020年4月には、米国からの情報協力でトリニダード島沖合のタンカーから400キロのコカインを押収しました。

ベネズエラからの不法移民問題は、麻薬、銃器の密輸、人身取引も絡み、深刻な問題となっており、警察及び沿岸警備隊は海洋国境管理の強化に努めています。ただ、最短で10キロしか離れていないことから、ベネズエラから当国を目指す船舶が後を絶たず、中には途中で遭難する悲劇も起きています。また2022年2月には、南部沿岸の公海上でベネズエラからの不法移民を輸送していた船舶に沿岸警備隊の船舶が発砲し、ベネズエラ人の幼児が死亡し、母親が負傷する事件も発生しました。

8. 外交

トリニダード・トバゴはカリブ地域内では、ジャマイカと並ぶ域内大国として重要な役割を果たしています。対外政策の基軸は、欧米、特に米国との関係を重視しつつ、カリコム加盟国として、カリコムでの決定を尊重し、自国の判断を慎重に選ぶ傾向にあります。90年代から始まった地域主義の台頭に対応し、カリブ諸国も域内での経済統合を加速するとともに、域外に対して共通の立場で臨む姿勢を強化しています。比較的穏健かつ現実的な外交路線を維持する一方、キューバ、北朝鮮とも外交関係を有しています。2021年上半期は、当国がカリコム議長国を務めました。

アジアについては、歴史的な繋がりが深いインドに加え、近年は中国との関係が急速に発展しています。2013年6月には、習近平中国国家主席が来訪、中国国家主席による初の英語圏カリブ諸国訪問が実現し、2018年5月にはローリー首相が中国を訪問しました。また、フィリピンとは出稼ぎ労働者の受入れを中心に関係を深めています。

中南米諸国に関しては、貿易関係を中心として関係を強化しており、近年は隣国のベネズエラのほか、経済成長が著しいブラジル、中米諸国をターゲットに経済外交を積極的に展開しています。ベネズエラとの関係では、ローリー政権はマドゥーロ大統領を支持し、内政不介入、当事者の話し合いによる解決を呼びかけています。また、2019年5～6月にかけて、当国に合法、不法を問わず居住するベネズエラ人の登録、身分証の発給を行い、約1万6千人のベネズエラ人が登録しました。さらに、2021年3月には身分証延長のための再登録手続きを実施し、1万3,800人以上が再登録を行いました。また2022年3月、登録済みの

ベネズエラ人は、同年12月末までの滞在延長を与えられました。2023年1月には4度目となる滞在及び就労ビザの延長が発表され、9,133人が再登録を行いました。一方で、教育や医療機関へのアクセス、運転免許の入手などは未だ制限されており、課題は残っています。

隣国バルバドスとは、トビウオ資源をきっかけに海洋国境紛争が起こり、2006年4月、同問題は国際海洋法裁判所で結審しました。2020年2月にバルバドスを訪問したローリー首相は、モトリー首相との間で石油・天然ガス資源開発の一体化協定に署名しました。

さらに、アフリカ諸国との関係強化を図るという観点から、南アフリカ及びナイジェリアに高等弁務官事務所を設置している他、ガーナとの間で石油・天然ガス分野等での協力に合意しています。また、2021年9月には初のカリコム・アフリカ首脳会合（オンライン）にローリー首相が出席しました。

なお、最近のウクライナ情勢をめぐる政策については、カリコム諸国間で連携しつつ、基本的に欧米との協調姿勢を示しています。

III. 経済

1. 概観

カリブ海地域最大の石油と天然ガス産出国であるトリニダード・トバゴは、観光業を主産業とする他のカリブ海諸国とは異なり、エネルギー関連産業を中心に経済成長を遂げてきました。エネルギー関連産業は総輸出額の約8割を占めています。以前は石油が中心でしたが、近年は天然ガスと関連する石油化学製品に重点を変え、官民一体となり天然ガス資源開発を含む更なる産業発展に力を入れてきており、多くの国際企業が投資しています。しかし、2016年のエネルギー価格の大幅下落以降、低調な新規ガス田の開発及び国際価格と生産費用の乖離から同国を支えてきたエネルギー産業は非常に厳しい状況に直面しています。また、脱炭素へ向けての世界的な潮流に対し、どう対応するのも今後の課題です。非エネルギー産業の育成による経済多様化の必要性は以前から指摘されてきましたが、エネルギー偏重の経済構造は変わっていません。また、2020年以降のコロナ禍は、当国経済に大きな影響を及ぼし、特に石油・天然ガスからの減収及びコロナ禍対策の追加支出により、財政赤字が拡大しました。2021年にもその影響は継続しましたが、2022年度の財政収支は、エネルギー価格上昇による歳入増、ガソリン補助金カットを含めた歳出抑制効果により過去10年間で初の黒字を確保したものの、2023年度は赤字が見込まれています。今後エネルギー市場価格は落ち着くとともに、2024年から石油化学製品の出荷減少が見込まれることもあり、今後の潜在的成長可能性は2.4%と予測されています。

2. 近年のトリニダード・トバゴ経済

トリニダード・トバゴの経済は、エネルギー産業の開発と共に発展してきました。植民地時代には周辺の島嶼国同様にサトウキビのプランテーションが広がっていましたが、1908年以降、エネルギー産業開発が進むにつれて砂糖産業は次第に衰退しました。当初エネルギー開発の中心的存在だった石油生産は、1978年に約8,400万バレルという年間生産量の最高値を記録して以降減少傾向にあり、2021年には2,185万バレル、2022年には2,133万バレルまで減少しています。近年、政府は天然ガス開発に重点を置き、石

油化学関連産業への外資誘致と生産に取り組んでいます。天然ガスの生産量も、2010年に442億 m^3 を記録して以降低下傾向にあり、2022年は268億 m^3 となりました。

輸出総額の8割以上をエネルギー関連商品に依存していることから、経済はエネルギー価格の世界的需要と価格動向に大きく左右されます。2008年には石油価格の高騰などを背景に、GDP総額は前年比で約60億米ドル増加したものの、翌年2009年には、世界金融危機の影響を受け、前年比約90億米ドル減少しました。2014年後半以降、生産量の減少と世界的なエネルギー価格安により、上流部門への投資が減少し、政府収入も減少した結果、2016年には経済成長率が前年比▲5.6%と大きく低下しました。

2018年の経済は、何とかプラス成長を達成したものの、エネルギー産業の低迷は続き、2019年は再度マイナス成長率を記録し、2020年にはコロナ感染症拡大による経済停滞と国際的なエネルギー価格の低迷という二重の打撃を受け、2016年以上に厳しい▲7.4%を記録しました。エネルギー産業への依存体質からの脱却を図り、経済構造の多様化へ向かうことの必要性は誰もが指摘するところですが、決定的な打開策を講じることは難しく、厳しい経済状況が続いています。

2021年はプラス成長を見込んでいましたが、▲0.7%で、財政赤字は当初予測の80億ドルから137億ドルに増加しました。2022年5月、インバート財相は、年央レビューを発表し、エネルギー価格高騰による石油・天然ガス関連の好調を理由に、4月末に57億ドルの赤字を見込んでいたのが、20億ドルの黒字を計上しており、債務も予測した87%から72%まで減少していると述べました。

表1 GDP 総額(単位: 億米ドル)

年	2018	2019	2020	2021	2022*	2023*
GDP 総額	245.69	237.76	208.08	244.96	300.53	281.42

(*推定値, 出所: IMF World Economic Outlook Database, April 2024)

表2 GDP 成長率(単位: %)

年	2018	2019	2020	2021	2022*	2023*
成長率	▲0.6	0.4	▲9.1	▲1.0	1.5	2.1

(*推定値, 出所: IMF World Economic Outlook Database, April 2024)

表3 インフレ率(消費者物価指数: 年間平均)(単位: %)

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023*
インフレ率	1.02	1.00	0.60	2.06	5.82	4.63

(*推定値, 出所: IMF World Economic Outlook Database, April 2024)

表4 失業率の推移 (単位: %)

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023
失業率	3.9	4.3	5.6	5.4	4.9	4.3

(出所: 財務省 Review of the Economy 2023, p. 208)

3. 産業

a. エネルギー産業

エネルギー産業は、石油、天然ガス、石油化学製品生産を中心にトリニダード・トバゴの経済を支えています。石油生産は、1908年以来、重点産業として位置づけられてきましたが、現在政府は天然ガス及びそれを原料とする石油化学産業の開発に重点を置くことで、天然ガスの採掘から精製、流通までのバリューチェーン化を進めています。天然ガスは、国内の電力発電にも利用されています。これまでエネルギー産業には多くの外国投資を呼び込んできましたが、2008年以降、減少傾向にあります。

原油生産は、伝統的な南部の陸上油田の採掘に加え、1980年代半ば以降からトリニダード島東部沖の海底油田の開発が進められてきました。エネルギー省によれば、原油生産量は、2010年の平均日産9.8万バレルから、2015年には日産7.9万バレルに減少、2022年には6.7万バレルまで減少していますが、依然として輸出の主要品目です。この間、ペトロリン国営石油公社は2018年8月にポワント・ア・ピエール精油所の閉鎖及び5千人以上の解雇を発表し、11月末に同精油所を閉鎖。同年12月からトリニダード・ペトロリウム・ホールディングという新たな社名の元、4つの子会社に分割しました。政府は同精油所の運営権を公示にかけ、民営化による再建を図りつつありますが、2024年7月現在、正式な業者決定には至っていません。

天然ガス産業は、1975年の閣議決定を受けて以来、天然ガス田の開発が進められてきました。BP社の統計資料によれば、2002年に5,743億m³を記録した確認埋蔵量は、2021年には2,982億m³まで減少しています。新たなガス田の発見が待ち望まれており、政府は、関連企業に対する優遇措置の適用を小規模または重要性が低いガス田開発にも拡大すると同時に、陸上、浅海、深海での掘削に対して最適な財政制度を整備する等、の対応をしています。

当国における天然ガス生産量は、2010年の日産約43億立方フィートから2018年には36億立方フィート、2020年は30億立方フィート、2021年は26億立方フィートまで減少しました。要因としては、上流部門の投資不足、新規ガス田の探査、発見の低迷及び失敗が挙げられますが、今後エネルギー需要が再生可能エネルギーに移行することが見込まれる中、国際的な競争力をいかに維持するかが大きな課題となります。天然ガスの不足と掘削費用の上昇は、石油化学産業への供給不足と採算難となり、これらのプラントの操業停止が相次いでいます。

石油・天然ガス・石油化学産業関連にはPARENCO(英仏)、BP(英)、BHP(豪)、EOG(米)、TEPGL(英)、シェル(蘭英)、プロマン(スイス)、ヤラ(ノルウェー)等、世界規模の多国籍企業が出資しており、日本の三菱3社もメタノール及びジメチルエーテル生産プラントへの投資を行っています。なお、政府は、天然ガス供給量の確保のため、2018年8月にベネズエラのドラゴン・ガス田からの天然ガス輸送協定を締結し、日産1億5,000万立方フィートの獲得を期待しましたが、2019年に発出された米国の対ベネズエラ制裁の影響を受けて、長らく開始の目処は立っていませんでした。しかし、2023年1月、米国政府の制裁解除に伴いTTによる同ガス田開発がようやく承認され、今後本格的に始動することが見込まれています。また、ベネズエラとの境界に跨がるローラン・マナティ・ガス田においては、共同開発が検討されてきたものの、米国の対ベネズエラ制裁を考慮して、2020年2月に当国は単独で開発すると表明しました。

トリニダード・トバゴは、アンモニア輸出世界1位、メタノール輸出世界2位^{xiii}、LNG輸出世界10位^{xiv}を誇っています。天然ガスは、中南米カリブ地域で最大の輸出国で、特にLNGは主要な輸出品目で、エネルギー省によれば天然ガスの半分以上をLNGとして輸出しています^{xv}。2000年代後半にはLNG生産量の7割程を米国に輸出していましたが、2000年代後半の米国におけるシェールガス開発により対米輸出は減少し、代わりに欧州・南米への輸出が増え、近年はアジアへも輸出しています^{xvi}。ガス化学産業については、下落基調にあった国際価格と原料の天然ガス価格との採算が合わないことを理由に、ヤラ、メタネックス、プロマンといった企業がアンモニア、メタノールプラントの一部閉鎖ないし停止を発表しています。

エネルギー分野への日本企業の進出は、2007年に、丸紅がカリブ地域4か国における持株会社（在米国）、丸紅カリビアンパワーホールディングス（MCPH社）を設立し、当国の電力需要の51%を供給するパワージェン社の株式の39%を保有しています。また、三菱3社（三菱商事、三菱ガス化学、三菱重工）は、国営ガス社及びマッシー社と共にカリビアンガス化学社（CGCL）を設立し、2015年に総額10億米ドル（その内三菱3社が70%を投資）を投じ、メタノール年間生産100万トン、ジメチルエーテル（DME）年間生産量10万トンの能力を有するプラントの建設を開始し、2020年12月から商業生産を開始しています。このプラントは、当国における日本の最大投資案件となっており、同社の取り組みは、雇用創出と地域社会貢献を通じたトリニダード島南西部の発展に繋がることも期待されています。2022年1月には同プラントよりメタノール100万トンの輸出が達成されました。

b. 非エネルギー産業

1993年以降、政府は製造業から金融業、農業にわたる国営企業の民営化を進めました。製造業は、国内及びカリコム諸国向けに食品、清涼飲料水、繊維、セメント、空調機器などを生産しています。2012年には外資誘致のために投資促進庁を設立し、経済構造の多様化を目指しています。その一環として、タマナ地区にICT分野を育成する目的でタマナ・インテックパークを設立し、日本企業を含む海外からの投資を誘致しており、また、ポイント・リサスには、中国の支援を受けてフェニックス工業団地を建設し、企業を誘致しています。

当国は、他のカリブ諸国と比べ、観光資源は少なく、農業、サービス、小規模製造業との連携を通じた工夫が必要と言われていますが、優位性を確立するまでには至っていません。多くの観光客が訪れるトバゴ島には飛行機のほか、フェリーも就航しており、2021年には豪州企業に発注した新型フェリー2隻が就航しました。統計局によれば、2014年以降40万人前後で推移していた訪問者数は、2020年にはコロナ禍の影響を受け、9.5万人にまで減少しましたが、2022年には22万人まで回復。2023年2月には3年ぶりのカーニバルが開催されたことなどから、2023年の訪問者数は31万人と大幅に増加しています。また訪問者による支出総額も2019年の4,821万ドルから、2020年には3,038万ドルに落ち込みましたが、2023年は6,128万ドルとコロナ以前を超えています。

^{xiii} World Bank World Integrated Trade Solution 2021

^{xiv} BP (2022) Statistical Review of World Energy 2022, p36

^{xv} トリニダード・トバゴ中央銀行(2021), Review of Economy 2020, p169, 170

^{xvi} ECLAC (2021), Navigating transfer pricing risk in the oil and gas sector, p36

4. 金融・財政

中央銀行が発行するトリニダード・トバゴ・ドル(TTドル)を通貨として使用しています。1993年の変動相場制導入以来、対米ドルレートは1米ドル6TTドル程度で比較的安定していましたが、徐々に価値を下げており、2024年7月現在、1米ドルは約6.8TTドルです。現在の為替相場は、政府により管理される管理相場制を敷いています。市場関係者は、現在の為替レートは実勢を反映しておらず、切り下げるべきと主張していますが、政府は生活必需品の輸入価格の高騰に繋がるとの理由で応じていません。ここ数年、米ドルを始めとする外貨不足の状況が継続しており、海外取引のある企業活動を厳しいものにしています。

2019年12月には、中央銀行は、資金洗浄及び偽札対策として、100ドルの新札(ポリマー紙幣)の導入、交換を3週間で実施し、2020年には、その他紙幣についてもポリマーの新札が導入されました。

財政は2016年度に135億 TTドルという大きな赤字を記録した後、改善傾向にありましたが、2020年には、コロナ禍の影響とエネルギー国際価格の低迷により、歳入が予定を大きく下回ったのに対し、社会保障費等が増加したことで歳出は減らず、結果、予定していた53億 TTドルに対し167億 TTドルの赤字という記録的な財政赤字額となりました。また、新規借り入れの必要が生じたことから、公的債務の対GDP比は、2019年度の72.9%から88.9%と10%以上悪化しましたが、2023年度は70.9%まで減少しました。2023年は、非エネルギー・セクターの成長が寄与し経済成長率は2.7%の見込み、外貨準備高は輸入の8.か月分を確保しています。

金融面では、植民地時代の1837年にコロニアル銀行として発足したカリブ地域最大規模のリパブリック銀行の本部は当国にあり、14か国に拠点を置き合計7,500人以上を雇用しています。その他、ファーストシチズン銀行も当国に本部を置き、カリブ諸国でも金融サービスを提供しています。

表5 公的債務対GDP比(単位:%)トリニダード・トバゴ会計年

年	2017.10- 2018.09	2018.10- 2019.09	2019.10- 2020.09	2020.10- 2021.09	2021.10- 2022.09	2022.10- 2023.09
債務割合	70.8	72.8	89.8	86.2	71.2	73.5

(出所:財務省 Review of the Economy 2023, p. 219)

(参考)

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023*
債務割合	40.52	45.26	60.56	60.04	50.70	54.34

(*推定値出所:IMF World Economic Outlook Database, April 2024)

5. 経済統合

当国が加盟するカリコムは、カリコム単一市場・経済(CSME)を目指しており、バハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間(12か国)でCSMEが2006年に開始されました。2007年10月から、アンティグア・バーブーダ議会が特定技術専門職労働者のカリコム域内自由移動を承認したことでカリコム単一市場が成立し、域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合は無関税となりました。対外共通関税は、産業製品には20%、農作物には45%を上限としています。

貿易面では、カリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名している他、対カナダ貿易経済協力協定を締結しており、チリとの交渉も開始しています。当国としては、米国、カナダ、英国、ドイツとの間で課税条約、また、米国、カナダ、英国、スイス、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ、キューバ、インド、中国、韓国との間で投資保護若しくは投資協定を締結しています。

また、カリコム及びカリブ諸国連合(ACS)を通じて、南米南部共同市場(メルコスール)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、2011年に中南米カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASから米国及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治・経済・社会・文化の側面の統合を長期目標に掲げています。

6. 貿易

貿易収支は他のカリブ諸国と異なり恒常的に黒字を記録しています。総輸出額の約8割は、LNG、アンモニア、メタノール等の石油化学製品、原油及び精製品といったエネルギー関連製品です。主な輸入品目は、機械・部品、原油等のエネルギー関連製品、車両・部品等です。

表6 貿易収支(単位:億米ドル)

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
輸出額	96.5	107.6	87.6	60.0	110.8	166.9
輸入額	64.5	66.2	60.3	50.2	63.7	75.1

(出所:中央銀行 Statistics, External Sector Annual)

表7 貿易相手国(地域)別貿易実績(2021年)

	輸出		輸入	
	国名	構成比(%)	国名	構成比(%)
1	米国	41.6	米国	34.6
2	EU	14.3	EU	10.6
3	ガイアナ	6.7	中国	10.5
4	メキシコ	4.3	メキシコ	7.0
5	コロンビア	3.4	ブラジル	5.6

(出所:WTO Trade Profile 2023)

IV. 日本との関係

1. 政治・外交

日本は1962年8月31日、トリニダード・トバゴの独立と同時に国家承認し、1964年5月22日に外交関係を樹立しました。1965年1月から在ベネズエラ大使が在トリニダード・トバゴ大使を兼任していましたが、1979年1月に在トリニダード・トバゴ大使館が開設されました。一方、トリニダード・トバゴ側は1971年11月から駐インド高等弁務官が駐日大使を兼任しています。2019年は、外交関係樹立55周年及び在トリニダード・トバゴ日本大使館開設40周年という記念すべき年でした。また、2024年は日本とトリニダード・トバゴ(及びジャマイカ)外交関係樹立60周年であるとともに、日本とカリコム事務レベル協議開始後30年が経過した年であり、これを記念し「日・カリブ交流年」とすることが決定しました。

2. 貿易

貿易収支は恒常的に輸出額が輸入額を上回り黒字を記録しています。主な輸出品目は、液化天然ガス(LNG)、アンモニア、ガスオイル、メタノール等のエネルギー関連製品です。主な輸入品目は、製造業関連品、原油等のエネルギー関連製品です。

<対日貿易>(単位:1,000 円)

輸入総額	27,178,986	輸出総額	19,498,922
主な輸入品	自動車	主な輸出品	有機化合物
	21,729,863		15,094,575
	原動機		液化天然ガス
	1,204,389		4,325,517
	自動車部品		蒸留酒
	958,930		59,099
	ポンプ及び遠心分離機		
	394,879		

(出所:財務省貿易統計;国別概況品別表(2023年))

3. 開発協力

日本の当国に対する開発協力は、脆弱性の克服を基本方針として、防災・環境分野等を中心に行われています。1975年度以降、176人の研修員を我が国に受け入れており、1987年度以降、水産の専門家を中心に70人(短期専門家を含む)が派遣されています(2021年度までの累計)。草の根・人間の安全保障無償資金協力は、1999年度以降、20件実施されています。

また、2021年3月には、当国を含むカリブ4か国の医療体制強化のため、国連プロジェクトサービス機関(UNOPS)を通じた4.99億円の無償資金協力の署名式がコスタリカで行われ、22年度中に事業が完了しました。更に、カリブ地域ではサルガッサム海藻の来遊が水産業や観光業に大きな被害を及ぼしている状況に鑑み、2022年2月には、カリブ5か国を対象とした総額14.19億円の無償資金協力「カリブにおける国家サルガッサム管理能力強化計画」の署名式が行われ、国連開発計画(UNDP)を通じてサルガッサム海藻対策機材の調達、処分・モニタリングに係る能力強化、各国間の情報共有枠組みの整備などが実施される予定です。

4. 要人往来

a. 来訪

年	月	人
1989年	1月	山下徳夫 衆議院議員
1996年	3月	三塚博 衆議院議員(2002年ワールドカップ招致活動)
1999年	5月	亀谷博昭 農水政務次官
2000年	9月	三浦一水 農水政務次官
2001年	8月	山口泰明 外務大臣政務官
2006年	8月	猪口邦子 内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)
2008年	6月	近藤基彦 衆議院議員
2010年	12月	山花郁夫 外務大臣政務官
2013年	5月	城内実 外務大臣政務官
2014年	7月	安倍晋三 総理大臣
2015年	1月	宇都隆史 外務大臣政務官
2017年	7月	藺浦健太郎 外務副大臣
2017年	8月	秋葉賢也 衆議院議員, 津島淳 衆議院議員
2019年	1月	小野寺五典 衆議院議員(元防衛大臣)(立ち寄り)
2022年	6月	上杉謙太郎 外務大臣政務官
2023年	5月	林芳正 外務大臣

b. 往訪

年	月	人
1974年		ウィリアムズ首相
1975年		ウィリアムズ首相, マハビア商工大臣
1978年		マハビア石油鉱山大臣
1985年		チェンバース首相 マハビア外務大臣 モトレー商工大臣
1987年		スダマ大蔵・経済担当大臣 モハメッド下院議長
1988年		ゴードン工業・企業・観光大臣 ウィルソン財務・経済担当大臣
1989年	6月	ウィルソン財務大臣
1990年	5月	ウィルソン財務大臣
1991年	3月	ウィルソン財務大臣
	4月	ドゥークラン計画・動員大臣
1993年	3月	モトレー財務大臣
1994年	12月	セイス計画・開発大臣
1999年		マックリーン国会議長
2005年		カミル・ロビンソニーレジス計画・開発大臣(IDB総会出席)
2010年	9月	ランバチャン外務大臣(日・カリコム外相会議)
2012年	4月 10月	グリフィス観光大臣 ドゥークラン外務大臣(世銀・IMF年次総会)
2013年	11月	ラムナライン・エネルギー大臣
2014年	8月	ダグラス芸術・多文化大臣
2015年	3月	アルフォンソ国家安全保障大臣(第3回国連防災世界会議)
2016年	4月	ヤング首相府付国務大臣(司法長官付大臣兼法務大臣)

5. 文化・人的交流

日本は当国に対し、1992年度に国立美術博物館に対する保存・展示機材(3, 900万円)、2000年度に国立高等教育院に対するLL機材(3, 010万円)の文化無償資金協力を実施しました。また、これまでに、西インド諸島大学語学センター等に対する日本語教材寄贈計10件、西インド諸島大学セント・オーガスティン校等に対する図書寄贈計9件等が実施されています。2019年8月には、曄道上智大学学長一行が当地を訪問し、西インド諸島大学などとの協力関係強化を協議しました。また、その際に西インド諸島大学語学学習センターへの外務大臣表彰授与が行われました。2021年2月には、当地で日本語普及の先駆者の1人であるランキン和子氏(津野田和子氏)への旭日単光章の伝達式が実施されました。

2019年、当国の剣道連盟の設立15周年を記念して、在外公館長表彰が行われました。さらに、2020年12月には、当地にて20年以上の長きに亘り柔道の普及に尽力したマーク・リトリアン・クイーンズ・パーク柔道クラブ会長への外務大臣表彰授与式、また、2022年1月には、15年以上の長きに亘り剣道の普及に尽力したエディ・デビッス・トリニダード・トバゴ剣道連盟会長への同大臣表彰授与式が実施されました。

2020年の東京オリンピック(21年に延期)のトリニダード・トバゴのホストタウンとして、鹿児島県大崎町及び高知県中土佐町が決まり、既に様々な交流が開始され、2021年2月にオンラインで開催されたホストタウンサミット2021には、当国からスチールパンバンドや当地を代表するソカ・ミュージシャンの KES らが参加した他、6月のカリコム・ホストタウン事業には、当国スポーツ省及びオリンピック委員会、大崎町関係者が出席しました。

2022年8月、JET プログラムの普及や面接試験・オリエンテーション実施への協力等の功績により当地 JET プログラム同窓会への外務大臣表彰授与が発表されました。2023年8月には、当地で日本語教育を推進してきたビバリー・アン・カーター西インド諸島大学・言語学習センター教授への旭日小綬章の伝達式が実施されました。また、2024年は日・トリニダード・トバゴ外交関係樹立60周年を記念し、5月に大型文化事業「日本伝統舞踊カリブ公演及びレクデモ」が実施されました。

最近の主要な文化事業は次のとおりです。

年	月	内容
2005年	3月	和食デモンストレーション
2006年	1月	折り紙デモンストレーション
2007年	3月	ジャズピアノ・コンサート
	4月	剣道デモンストレーション
2008年	3月	和食デモンストレーション
	9月	巡回展「武道の精神」
2009年	11月	日本文化祭(西インド諸島大学)
2010年	3月	和食デモンストレーション
	5月	日本文化展示会
	9月	邦楽公演(琴・和太鼓)
2011年	11月	邦楽公演(和太鼓、津軽三味線)
2013年	1月	邦楽公演(和太鼓)
2014年	2月	邦楽公演(琴・チェロ)
	2月	武道デモンストレーション
	7月	和太鼓ミニコンサート

	7月 9月 10月 12月	日本カレンダー展示会 日本アニメ上映会 林英哲・英哲風雲の会 和太鼓コンサート 寿司レクチャー・デモンストレーション
2015年	3月 4月	UWIオープンハウスにおける日本文化紹介 着物レクチャー・デモンストレーション
2016年	3月～	日本のテレビ番組放映(ドラマ「カーネーション」。 2017年3月放映終了。)
2017年	11月 3月～ 11月	日本映画祭 日本のテレビ番組放映(アニメ「宇宙兄弟」及び 新海誠監督4作品) 日本文化紹介展
2018年	3月 3月～ 8月	和食紹介 日本のテレビ番組放映(ドラマ「あさが来た」及びアニメ「ブ ラック・ジャック」「火の鳥」) 第1回日本語弁論大会
2019年	3月 8月 10月	日本映画祭 第2回日本語弁論大会 剣道大会
2020年	8月	第3回日本語弁論大会(オンライン形式)
2021年	9月	第4回日本語弁論大会(オンライン形式)
2022年	9月 11月	第5回日本語弁論大会 サッカーW杯プレイベントでの日本文化紹介
2023年	3月 3月 5月 11月 12月	日本映画祭 UWIオープンハウスにおける日本文化紹介 日本文化祭りにおける伝統舞踊公演及びレクデモ 第6回日本語弁論大会 日本映画祭
2024年	4月 4・5月	国立図書館(NALIS)でのアジア・ナイツ(文化紹介) 大型文化事業「日本伝統舞踊カリブ公演及びレクデモ」

その他の人物交流事業として、平成8年度若手外交官招へいで1人、平成16年度～令和5年度 JET プログラムで計224人、文部科学省国費外国人留学生(研究留学生)で計24人の他、JUNTOS！(フントス)中南米対日理解促進交流プログラム、報道関係者招聘、オピニオン・リーダー招聘、TVチーム招待等の様々な招聘事業が実施されています。更に、国際協力推進協会(APIC)も政府及び報道関係者や学生の日本招へい事業等を行っています。

6. 在留邦人

2024年8月現在の在留邦人は43人です。

V. 旅行者のために

1. 時差

トリニダード・トバゴは、ベネズエラと同じタイムゾーンに属し、グリニッジ標準時間とはマイナス4時間の時差があります。従って、日本との時差はマイナス13時間です。米国夏時間実施時(4月の第1日曜日の午前2時から、10月最終日曜日の午前2時まで)には、ニューヨーク、マイアミとの時差はなくなりますが、米国標準時にはプラス1時間となります。

2. 通貨・両替

通貨はトリニダード・トバゴ・ドル(TTドル)、補助単位はセント(1TTドル=100セント)です。紙幣は1、5、10、20、50、100の5種類、硬貨は1、5、10、25セントの4種類あります。

米ドルからTTドルの両替は、銀行、両替所、ホテルのフロント等でできます。主要なクレジットカード(VISA、MASTER CARD、AMERICAN EXPRESS)はホテル、レストランをはじめショッピングセンター、スーパー等殆どの場所で使用できます。JCBカード、日本円は通用しません。

3. 税金・チップ

物やサービスには12.5%の付加価値税(VAT)が加算されます。ホテルの宿泊料金にはホテル税10%及びサービス料10%が、レストランではVAT12.5%及びサービス料10%が加算されます。出国の際の空港使用料は航空券に含まれています。

トリニダード・トバゴではチップの習慣は基本的にありませんが、ホテルのポーターやボーイへチップを与えるのは常識となっています。チップの相場はバッグ1つにつき5TTドルです。空港でポーターに荷物を運んでもらう場合、スーツケース1つにつき5TTドルで、料金表が空港内に掲示されています。

4. 電話

公衆電話は25セント硬貨を使用するかスーパーマーケット、雑貨店、郵便局等でテレフォンカードを購入して使用できますが、携帯電話が普及しているため、公衆電話はホテルや空港を除くとほとんど見かけることがありません。

国際電話は、最初に011(但し国番号が1の地域〔北米・カリブ〕は不要)、次に国番号、先方の電話番号の順でダイヤルします(日本の場合、市外局番先頭の0を取ります)。

(例)トリニダード・トバゴから日本にかける場合

011-81(日本の国番号)- 0を除く相手先番号

5. 電圧・プラグ・水道

電力は米国と同様、115ボルト、60ヘルツです。

プラグの形は日本のものと同じ形状であり、日本製製品は、変圧器なしでもほとんど問題なく使用することができます。しかし、僅かとはいえ電圧数が違うため、心配であれば、日本製の炊飯器やオーブンプレート等、加熱性の電化製品には変圧器を使用すると確実です。

水道水の飲用は奨励できません。スーパー等でミネラルウォーターを購入するか、浄水器を取り付けると良いでしょう。

6. 2024年の祝祭日

多様な人種、文化を反映し、トリニダード・トバゴの祝祭日は、インド人やアフリカ系住民、キリスト教、ヒンズー教、そしてイスラム教を対象に設定されており、それらの祝祭日にあわせ、各地でイベントが催されます。

1月 1日	NEW YEAR' S DAY	元旦
2月12日	CARNIVAL MONDAY	カーニバルデー(月曜日)
2月13日	CARNIVAL TUESDAY	カーニバルデー(火曜日)
3月30日	SPIRITUAL BAPTIST LIBERATION DAY	バプティストの日
3月29日	GOOD FRIDAY	キリスト受難の日
4月 1日	EASTER MONDAY	イースター
4月10日	EID-UL-FITR	イード・アル・ファトゥール
5月30日	INDIAN ARRIVAL DAY observed	インド人到来記念日振替
6月19日	LABOUR DAY	労働者の日
8月 1日	EMANCIPATION DAY observed	奴隷解放記念日振替
9月24日	REPUBLIC DAY	共和国記念日
10月31日	DIWALI	ディワリ
12月25日	CHRISTMAS DAY	クリスマス
12月26日	BOXING DAY	ボクシングデー

7. 交通事情

当国での運転は、日本と同様、右ハンドル、左車線通行です。

陸路

当国には鉄道網はなく、交通手段は自家用車または、タクシー、マキシー・タクシー及びバスとなります。

タクシー

ナンバープレートが「H」で始まる車が乗合タクシーです。乗合タクシーは頻繁に走っており、どこでも手を挙げれば容易に拾うことができます。料金は安いものの、車内強盗等の危険性もあるため、利用はお勧めしません。

やや割高ですが、タクシー会社に電話をかけて呼ぶのが最も安全です。メーター制はないので事前に料金を聞き、支払いはTTドルか米ドルかを確認しておくことが望ましいです。

マキシー・タクシー

白地のワンボックスカータイプで、側面に行き先によって異なる色のストライプが施されています。

バス

バスは主要都市間を結んでいます。路線図の類がなく、事前に切符を購入しておかなければならないこともあり、旅行者にはかなり不便に感じられます。また、時間が不規則です。

ライドシェア

2018年よりTTRS(TT ライドシェア)がトリニダード内でサービスを開始。米ウーバー社同様にアプリでライドシェアを呼ぶ方式。2019年よりトバゴ島でもサービス開始。レギュラーの料金は、基本料金12TT ドル＋1キロ当たり1.5ドル(または1分あたり1ドル)。

海路

トリニダード⇄トバゴ間は、毎日フェリーが運行しています。Conventional ferry(所要時間4時間半)と Fast ferry(所要時間2時間半)の2種類があります。フェリーには車を持ち込むことができ、料金も手軽であることから、最近では飛行機よりも人気が増してきています。乗り場は、トリニダードがダウントアウン近くの港(POS 地図参照)、トバゴがスカボロー港となっています。車のチェックインは出港3時間前で、乗客のチェックインは出港2時間前です。

空路

トリニダード島とトバゴ島間は、カリビアン航空が毎日数便運行しています。所要時間は約30分。

8. 治安

トリニダード・トバゴでは銃器等を使用した凶悪犯罪が頻発する等、依然として安心できる状況にはありません。2023年は、年間で563件の殺人事件が発生しています。また、その約8割で銃器が使用されていることから、殺人事件の多発や違法銃器の蔓延が社会問題になっています。

強盗事件でも銃器使用の割合は高く、昼夜を問わずさまざまな場所で、銃器等で武装した者が犯行に及んでいます。また、自動車強盗や預金引出後を狙った強盗が数年前から急増しており、常に用心が必要です。

2016年2月に開催されたカーニバル期間に日本人女性が殺害された事件、2017年に中国大使館勤務の中国人が身代金目的で誘拐された事件、2022年1月に中国人が経営する商店を狙った強盗が多発する等、アジア系住民を狙った凶悪犯罪も頻発しています。

首都のダウントアウン地区を含め、いずれの地域においても人通りや周囲の雰囲気にも十分に注意し、特に夜間の不用意な外出は控える、昼夜を問わず人通りの少ないところ、暗いところは避けてください。

トリニダード・トバゴからISILに参加するため中東地域に渡航した当国人が多く、その一部は既に帰国していると言われています。2016年にはISILが当地でのテロを呼び掛け、実際に2018年2月には、カーニバルを狙ったテロ攻撃を計画していたとして複数名の者が逮捕される等、テロの可能性についても否定できない状況です(現在、渡航情報(十分注意)が発出されています)。

VI. 観光

1. ポート・オブ・スペイン市内観光

❖ クイーンズ・パーク・サバンナ(Queen's Park Savannah)周辺と壮麗なる7軒

カーニバル等の催し会場、サッカー、クリケット、ラグビー等の練習場に使われているサバンナは、1817年英国総督のラルフ・ウッドフォードが、かつてサトウキビのプランテーションであった場所を市民の憩いの場として開設したものです。公園は1周が約3.8キロあり、朝夕は多くの市民がウォーキング／ジョギングを楽しんでいます。公園の周りにはココナッツをはじめ、オイスター・カクテル、ポロリ(一口サイズの揚げドーナツ)、コーンスープ、ベーク・アンド・シャーク等の露天が並びます。

公園の西側には **Magnificent Seven** と呼ばれる、壮麗なる7軒の建築物が並びます。うち最も南に位置する **Queen's Royal College** は1904年に建てられたルネサンス様式の高等学校です。トリニダード・トバゴで最も優秀な男子校であり、初代首相エリック・ウィリアムズや、ノーベル文学賞受賞者V. S. ナイポールの母校でもあります。南から6番目の建物は **Whitehall**: 首相府です。

公園の北側には**大統領官邸**があり、その厳かな建築物と、美しい庭園に目を惹かれます。大統領官邸の隣には**植物園**と**動物園**があり、週末には家族連れで賑わいます。

公園の南側には、**国立博物館**(National Museum and Art Gallery)があり、考古学の史料から現代の石油産業に関わるもの、カーニバルのコスチューム等トリニダード・トバゴについての知識を深めることができます(2023年春現在、改装のため休業中)。

❖ ジョージ砦(Fort George)

市内の高台にある英領時代初期に建てられた砦跡です。現在も砲台や監視所が残っており、市内と海を一望することができます。特に夕暮れ時の景色はすばらしいものがありますが、日没後は治安の悪化に注意が必要です。

❖ ウッドフォード広場(Woodford Square)とその周辺

Frederick St.とAbercromby St.に挟まれたダウントアウンの中心にある広場で、初代首相エリック・ウィリアムズが街頭演説を繰り返した場所として有名です。広場の周辺は昼間から人通りが多く、市民の憩いの場となっています。周りには西側に**レッド・ハウス**(国会議事堂:90年のクーデターの舞台となった)、北側に**シティホール**、**裁判所**、南側に**大聖堂**(Holy Trinity Cathedral)があります。また、レッド・ハウスの裏にある歴史的建造物の警察署(1877年建造。クーデターの際に焼失)も一見の価値があります。

❖ 独立広場(Independence Square)とその周辺

ダウントアウンの中心、中央分離帯にある細長い広場が独立広場です。中央銀行、財務省、各国大使館等が入っているツインタワーをはじめ、ファーストフードレストラン、航空会社、バスターミナル、乗合タクシーの発着所等があり、常に人と車で賑わい、市民生活の一端がうかがえます。広場

の中心には、トリニダード・トバゴの建国の父である**シブリアニの像**が建っています。

広場東側一角にある**ローマカトリック大聖堂**は石造りの見事な教会で、一見の価値があります。広場の西側に新たに整備された歩道は、トリニダード・トバゴ出身のクリケット選手で世界記録保持者の**ブライアン・ララ**の名にちなんで、**ブライアン・ララ・プロムナード**と呼ばれています。

2. エクスカーション

a. トリニダード島

● マラカス・ビーチ

トリニダード島で最も人気のあるビーチです。名物の「**ベーク・アンド・シャーク**(鮫のサンドイッチ)」が味わえます。

● 赤い鳥見学ツアー



トリニダード・トバゴ観光の目玉と言えるツアーです。ボートに乗って 熱帯雨林の茂る湿地帯を進み、国鳥に指定されている「赤い鳥(Scarlet Ibis)」を観察します。夕方、巣に戻る鳥を観察するため、午後4時の出船となります。ベスト・シーズンは11月から3月にかけてです。

● ASA Wright 自然センター

トリニダード・トバゴは、野鳥の種類が豊富であり、この自然センターでは数種類のハチドリのみならず、餌付けが行われています。ガイドがジャングルのような植物園内を案内してくれます。所要時間は 約2時間で、ガイドツアーへの参加は予約が必要です。

● ピッチ・レイク

世界でも珍しい天然アスファルトを見学することができます。

● ポイント・リサス工業地

石油産出国であるトリニダード・トバゴにおいて、石油精製工場や天然ガスの精製工場等が立ち 並ぶ工場群となっています。

● トリニダード北東海岸

サリビアから始まる沿岸をトコヤ、サーファーで賑わうサンスルーシ、グランド・リビエラへと ほとんど手の入っていない海岸線を楽しむことができます。

● オサガメ観察

トリニダード島の北西海岸ではオサガメの産卵を間近で見ることができます。シーズンは5～8月で、シーズン前半には親亀が産卵のために砂浜に戻り、産卵を終えてまた海に戻っていく姿が、 シーズン後半

には卵から孵化し、海へと巣立っていく子亀を見ることができます。

b. トバゴ島

● ブッコー・リーフ

トリニダード・トバゴが誇る美しい珊瑚礁です。ガラス底のボートで珊瑚礁や魚たちを見るツアーもあります。シュノーケリングも可能です。海の中にできた自然のプール「ナイロン・プール」も見逃せません。

● アーガイルの滝

熱帯雨林の中を、植物や、鳥、虫などを観察しながら進むとアーガイルの滝に行き着きます。滝壺では水浴を楽しめます。

VII. 宿泊

1. 一般事情

トリニダードのホテルはその質の割には料金が高く、一泊US\$100以下のホテルを見つけることは困難です。ゲストハウス等に宿泊すれば安くは収まりますが、セキュリティが万全でない宿舎もあるので推奨できません。少しでも不安を感じたところには泊まらないようにすることが賢明です。

トバゴ島のホテルは、比較的对価に見合ったサービスを期待することができます。料金に全てのサービスが含まれているオール・インクルーシブのホテルもあり、リゾート気分を味わうことができます。

毎年2月頃に開催されるカーニバルの前後は海外からの観光客で溢れるため、ホテルの料金も通常の3～5倍近くに値上がりする上、1泊や2泊の予約は受け付けず、カーニバルパッケージ(5夜 連泊など)でないと予約ができないケースもあります。カーニバルシーズンはホテル料金の高騰にもかかわらず、主要ホテルはほぼ全て予約で埋まります。

2. ホテルリスト

ホテル(ポート・オブ・スペイン)			
ホテル名	所在地	電話	ウェブサイト
Courtyard by Marriott	Invaders Bay, Audrey Jeffers Hwy.	627-5555	www.mariott.com/poscy
Hilton Trinidad & Conference Centre	Lady Young Rd.	624-3211	www.hiltontrinidadhotel.com
Hyatt Regency Trinidad	1 Wrightson Rd.	623-2222	www.trinidad.hyatt.com
Kapok Hotel	16-18 Cotton Hill St, Clair	622-5765	www.kapokhotel.com
The Normandie Hotel	10 Nook Ave, St. Ann's	624-1181	www.normandiett.com/
Radisson Trinidad	Wrightson Rd.	625-3366	www.radisson.com/port-of-spain-hotel-tt/ttosptr
ゲストハウス(ポート・オブ・スペイン)			
ゲストハウス名	所在地	電話	ウェブサイト
Par-May-La's Inn	53 Picton St, Newtown	628-2008 628-5321	www.parmaylas.com
Sundeck Suites	42-44 Picton St, Newtown	622-9560	www.sundecktrinidad.com
ホテル(空港周辺)			
ホテル名	所在地	電話	ウェブサイト
Holiday Inn Express Hotel & Suites	No.1 Exposition Drive, Trincity	692-4557 669-6209	www.hiexpress.com/trincitytt
ゲストハウス(空港周辺)			
ゲストハウス名	所在地	電話	ウェブサイト
Airport Inn	60 Factory Rd., Golden Grove, Piarco	669-8207 678-6327	www.airportinntrinidad.com

IX. トリニダード・トバゴに関するウェブサイト(英語)

・トリニダード・トバゴ政府

<http://www.ttconnect.gov.tt>

・トリニダード・トバゴ観光省

<http://tourism.gov.tt/>

・Trinidad Guardian(トリニダード・ガーディアン紙)

<http://www.guardian.co.tt/>

・Daily Express(デイリー・エクスプレス紙)

<http://www.trinidadexpress.com/>

・Newsday(ニュースデイ紙)

<http://www.newsday.co.tt/>

・Discover Trinidad and Tobago-観光情報

<http://www.discovertrnt.com/>

・Visit Tobago-トバゴ観光情報

<http://www.visittobago.gov.tt/>

- ・Tobago Naturally-トバゴ観光情報
<http://www.tobagohoteltourism.com/>
- ・My Tobago-トバゴ観光情報
<http://www.mytobago.info/>
- ・Lime.tt-イベント情報
<http://www.lime.tt/>

X. 主要電話番号

警察	999
救急・消防	990
電話番号照会	6411
沿岸警備隊	(1-868) 634-4440
ピアルコ国際空港	(1-868) 669-4880
St. Clair Medical Center	(1-868) 628-1451／8615
日本国大使館	(1-868) 628-5991～3

トリニダード・トバゴ閣僚名簿
(2020年8月19日組閣)

2024年8月現在

1 閣僚 (Ministers)

(所属政党は全員PNM(人民国家運動))

(1)	首相 Prime Minister	キース・ローリー Dr. the Honourable Keith ROWLEY, M.P.	下院議員
(2)	司法長官及び法務大臣 Attorney General and Minister of Legal Affairs	レジナルド・アーマー Senator the Honourable Reginald Armour SC	上院議員
(3)	農業・国土・漁業大臣 Minister of Agriculture, Land and Fisheries	カジム・ホセイン Senator the Honourable Kazim HOSEIN	上院議員
(4)	教育大臣 Minister of Education	ナイアン・ギャツビー＝ドリー Dr. the Honourable Nyan GADSBY-DOLLY	下院議員 女性
(5)	エネルギー・エネルギー産業大臣 兼首相府付大臣 Minister of Energy and Energy Industries and Minister in the Office of the Prime Minister	スチュアート・ヤング The Honourable Stuart YOUNG	下院議員
(6)	財務大臣 Minister of Finance	コルム・インバート The Honourable Colm IMBERT	下院議員
(7)	外務・カリコム担当大臣 Minister of Foreign and CARICOM Affairs	エイムリー・ブラウン Senator Dr. the Honourable Amery BROWNE	上院議員
(8)	保健大臣 Minister of Health	テレンス・デヤルシン The Honourable Terrence DEYALSINGH	下院議員
(9)	住宅・都市開発大臣 Minister of Housing and Urban Development	カミーユ・ロビンソン＝レジス The Honourable Camille ROBINSON-REGIS	下院議員 女性
(10)	労働大臣 Minister of Labour	スティーブン・マックラシー The Honourable Stephen MC CLASHIE	下院議員
(11)	地方開発・地方自治大臣 Minister of Rural Development and Local Government	ファリス・アル・ラウイ The Honorable Faris AL-RAWI	下院議員
(12)	国家安全保障大臣 Minister of National Security	フィッツジェラルド・ハインズ The Honourable Fitzgerald HINDS	下院議員
(13)	計画・開発大臣	ペネロピ・ベックルス	下院議員

	Minister of Planning and Development	The Honorable Pennelope <u>BECKLES</u>	女性
(14)	総務大臣 Minister of Public Administration	アリソン・ウエスト Senator the Honourable Allyson WEST	上院議員 女性
(15)	デジタル変革大臣 Minister of Digital Transformation	ハッセル・バッカス Senator the Honourable Hassel BACCHUS	上院議員
(16)	公益事業大臣 Minister of Public Utilities	マービン・ゴンザレス The Honourable Marvin GONZALES	下院議員
(17)	社会開発・家族大臣 Minister of Social Development and Family Services	ドナ・コックス Senator the Honourable Donna COX	上院議員 女性
(18)	スポーツ・地域開発大臣 Minister of Sport and Community Development	シャムファ・クジョー The Honourable Shamfa CUDJOE	下院議員 女性
(19)	観光・文化・芸術大臣 Minister of Tourism, Culture and the Arts	ランドール・ミッチェル The Honourable Randall MITCHELL	下院議員
(20)	貿易・産業大臣 Minister of Trade and Industry	ポーラ・ゴピ＝スクーン Senator the Honourable Paula GOPEE=SCOON	上院議員 女性
(21)	公共事業・運輸大臣 Minister of Works and Transport	ローハン・シナナン Senator the Honourable Rohan SINANAN	上院議員
(22)	青少年開発・奉仕活動大臣 Minister of Youth Development and National Service	フォスター・カミングス The Honourable Foster CUMMINGS	下院議員

2 省付大臣 (Ministers in the Ministries)

(1)	農業・国土・漁業省付大臣 Minister in the Ministry of Agriculture, Land and Fisheries	アビナッシュ・シン Senator the Honourable Avinash SINGH	上院議員
(2)	教育省付大臣 Minister in the Ministry of Education	リサ・モリス＝ジュリアン The Honourable Lisa MORRIS=JULIAN	下院議員 女性
(3)	財務省付大臣 Minister in the Ministry of Finance	ブライアン・マニング The Honourable Brian MANNING	下院議員
(4)	住宅・都市開発省付大臣 Minister in the Ministry of Housing and Urban Development	エイドリアン・レオンス The Honourable Adrian LEONCE	下院議員
(5)	司法長官・法務省付大臣 Minister in the Office of the Attorney General and Minister of	レヌカ・サグラムシン＝ソークラル Senator the Honourable Renuka SAGRAMSINGH=SOOKLAL	上院議員 女性

	Legal Affairs		
(6)	首相府付大臣（ジェンダー及び 児童担当） Minister in the Office of the Prime Minister (Gender and Child Affairs)	アヤンナ・ウェブスター＝ロイ The Honourable Ayanna WEBSTER-ROY, M.P.	下院議員 女性
(7)	首相府付大臣（情報担当） Minister in the Office of the Prime Minister (Communications Division)	サイモン・デ・ノブリガ The Honourable Symon DE NOBRIGA	下院議員

トリニダード・トバゴ地図



※出典: Worldatlas.com

ポート・オブ・スペイン地図



当館管轄国と日本の貿易関係（2023年全期）

	アンティグア・バーブーダ	ドミニカ国	グレナダ	セントクリストファー・ネービス	セントルシア	セントビンセント	トリニダード・トバゴ	ガイアナ	スリナム
対日輸入 総額	2,661,166 (1,450,544)	763,849 (554,396)	1,942,895 (1,128,546)	1,057,685 (861,805)	2,729,499 (1,654,054)	984,517 (677,253)	27,178,986 (14,728,545)	21,816,211 (12,696,486)	8,274,032 (8,902,515)
主要 輸入品目	自動車 2,437,623 ポンプ及び遠心 分離機 25,440 繊維製品 8,734	自動車 691,802 自動車部品 15,714 原動機 15,044 精密機器 1,753	自動車 1,761,937 原動機 67,024 船舶類 25,400	自動車 930,471 船舶類 71,500 自動車部品 18,519	自動車 2,530,358 自動車部品 39,859 建設用・鉱山用 機械 18,277	自動車 795,531 自動車部品 32,704 原動機 18,185	自動車 21,729,863 原動機 1,204,389 自動車部品 958,930 ポンプ及び遠心 分離機 394,879	自動車 19,136,730 原動機 664,851 自動車部品 214,135	自動車 6,439,022 ゴムタイヤ及び チューブ 543,713 原動機 189,015 自動車部品 66,926
対日 輸出総額	2,270 (32,394)	18,331 (57,976)	8,998 (0)	1,912 (480)	3,677 (1,383)	620 (428,507)	19,498,922 (25,436,848)	1,242,298 (546,990)	879,496 (657,350)
主要 輸出品目	電気機器 1640 鉄鋼の棒・形鋼 及び線 630	電気機器 11,835 蒸留酒 627	蒸留酒 6,844 カカオ豆 1,654	手道具類及び 機械用工具 777 事務用機器 682	蒸留酒 2,600 電気計測機器 1,077	メリヤス編み及 びクロセ編み衣 類 378	有機化合物 15,094,575 液化天然ガス 4,325,517 蒸留酒 59,099	非鉄金属鉱 1,103,066 生きた動物 51,950 蒸留酒 32,762	魚介類 647,288 木材 133,465 非鉄卑金属くず 71,028
対日 貿易収支	-2,658,896 (-1,418,150)	-745,518 (-496,420)	-1,924,564 (-1,128,546)	-1,055,773 (-861,325)	-2,725,822 (-1,652,671)	-983,897 (-248,746)	-7,680,064 (-10,708,303)	-20,573,913 (-12,149,496)	-7,394,536 (-8,245,165)

<単位>1,000 円 / <出典>財務省貿易統計: 国別総額表, 国別概況品別表()内 2023 年総額